

令和7年度北上市市政座談会

～きたかみまちづくりトーク「WAになって話そう」～in 更木

報告書

日 時 令和7年11月10日（月） 午後6時から7時まで

場 所 更木地区交流センター

参加者 地域参加者：48名

市出席者：13名 ※他事務局等7名

グループトークテーマ

- ①：「人口が1,000人を切ったこれからの更木」の関係人口を増やしていくために、できること・やってみたいことは何ですか？
- ②：地震・豪雨などの自然災害から身を守るために、家庭や地域でできることは何ですか？
- ③：獣害から更木の農業を守るために、みんなで取り組めることは何ですか？
- ④：子どもたちがふるさとを愛し、いつまでも住み続けたいと思う地域の姿を考えましょう
- ⑤：これからの自治会や行政区の活動を継続していくために、できることは何だと思いませんか？

①グループ

- ・関係人口を増やすこととして、地域内の色々な団体とつながることで居場所ができ、関係人口につながるのではないかと、農地や古民家を利用して観光・体験の場として活用し、つながりづくりをしたい、若い人が地元を離れても、更木をふるさとだと思い続けてもらえる関係性をつくるのが大事、などの意見があった。また、川を隔てて更木側は寂しいと感じる、という意見もあり、そのイメージを変えていきたいという話もあった。
- ・更木の人口を増やしたいという意見もあり、土地や住宅などの環境整備、農業振興地域の除外などの意見もあった。
- ・地域でこれからの更木を考える集まりを開いたときに、何をどうしたらよいか分からず意見が出ないことがあったので、逆に外の人から見た更木の良さや課題を聞いてみる機会があると良い、という話もあった。

②グループ

- ・災害時の行動について、避難経路の確認やタイミングの見極め、情報の把握、家族での避難場所の確認など、各自心掛けていることが挙げられた。また、高齢者や要支援者の避難について、普段から世帯を把握しておいて、いざという時に声をかけられるようにしておきたい、避難の際に実際に動けるのか不安に思う、という声もあった。
- ・地域の人と協力する共助も大切だという話もあり、普段から顔の見える関係をつくり、避難の時に声を掛け合える関係性をつくりたい、個人情報などもあって関係作りが難しく悩んでいる、という意見も出た。
- ・災害時は、どこから発せられる情報を確認すれば良いのか、避難するタイミングを示してほしいという意見について、市出席者から説明があった。また、高齢者は防災サイレンが一番わかりやすいと思うという意見もあった。

③-1グループ

- ・ 獣害について、身近ではクマよりもシカの被害がひどく、農作物に影響が出ている、生活面ではクマの心配がある、野良猫も多く、地域全体で増え続けなければ良いと思っている、更木地区はケモノが多く、対策をしてもこの先同じやり方ができるのか不安である、電気柵の設置や草刈りは必要であり、効果もあると思うが、費用や人手が問題になっている、等の意見が出された。
- ・ 空き家や耕作放棄地の管理についても意見が出された。所有者が管理できなければ、地域内で敷地内の樹木の伐採や草刈りができるしくみや、行政判断で整理できる体制があれば良いという意見があった。
- ・ 人間と動物が住むエリアをしっかりと分けることができたら良いという意見もあり、難しいけれど共存していくために必要なことではないかという話が出た。

③-2グループ

- ・ 個人や地域でできる対策として、畑に電気柵を設置したりネットで囲っている、畑の境界線や周辺をきれいに整備する、耕作放棄地を適切に管理する、等の意見があった。地域でできることとしては草刈りが一番だが、お金や人手が不足しているため難しい、市の方で何か支援があると良い、という意見も出された。
- ・ 電気柵などの補助について、何かあるか、どういったものが使えるかという質問があった。市出席者からは、条件はあるが、市でも国の事業でも補助金はあるため、担当課へ相談してほしいという説明があった。
- ・ 農業の後継者不足の話があり、若い人が農業に興味を持ち、北上に住んで農業に携わることのできるしくみがあれば良いという意見もあった。また、農地集約検討会という実際に図面を見て農地について話し合う場があるので、参加してほしいという話があった。

④グループ

- ・ 子どもたちには、一度は更木地区を離れて外に出てみてほしいが、いずれは帰ってきてほしいという意見が多くあった。帰ってきたいと思うような愛着を持ってもらうために、日常の小さなかわりを地域で持つこと、地域の魅力に触れる機会をつくること、行事に積極的に参加すること等が挙げられた。
- ・ 更木に帰ってこなくても、更木との関わりを大切にしてもらいたいという意見もあり、更木が楽しいと思える場を大人が楽しんで作っていくことで、子どもたちが地域に関わっていくことにつながるのではないかという意見が出た。
- ・ 市出席者からは、子どもが地元をどう捉えているか・これからどうありたいと思っているのかなど、子どもの思いを聞いて、地域がどうあれば地元を愛して残ってくれる人が育つのかを一緒に考えていくことが大事だと思う、という話があった。

⑤-1グループ

- ・人が少なくなっているのに仕事の量や役職の数が変わらず、負担が大きいという意見が多くあった。更木地区は今後も同じ体制のまま継続できる地域ではなく、今の実情に合わせた見直しが必要で、行事の規模の縮小や役割を減らすことなどを考えていかなければならないという共通課題が出た。
- ・スポーツに関する行事は、少しずつ形を変えたり縮小しているのに対し、民俗芸能や文化行事はほとんど変わっておらず、昔の規模のまま続けるのは、一人一人の負担が大きいという話もあった。
- ・若い世代にも参加してもらいたいという意見もあり、どういう形であれば一緒にできるか視点を変えて考えていくことが大切だという意見が出た。みんなの意見を聞きながら、守るべきものと見直すべきものを整理していくことが必要だという感想があった。

⑤-2グループ

- ・自治会や行政区の活動について、区長制度が無くなったことによる自治会長への負担が大きい、担い手不足による役員の掛け持ちが増えている、女性にも声をかけて役職を引き継いでいきたいと考えている、等の話が出た。複数の地区で、交代制で役員を回すことで、一部に負担が偏らない方法を取っているという情報を共有した。
 - ・役職の負担軽減と誰が担っても仕事がわかるように、業務のマニュアル化を進めているという話が出た。一度作っておけば後々が楽になるのでとても大切なことだと思う、と共感する意見があった。
 - ・区長制度がなくなった後、地域でも話し合いの場がなくなったのではないかという話もあり、地域内の行政区や自治会の連携や情報交換をする場があった方が良くはないかという意見があった。
-

グループトークの様子



**更木地区の皆さま
たくさんのご参加ありがとうございました**